

2026年3月25日

## 【抗議声明】

イランをめぐる軍事行動に断固抗議し、即時停戦と対話による解決を強く求めます

生活協同組合あいコープみやぎ

理事長 高橋 千佳

現在、中東情勢はかつてない危機の淵にあります。アメリカおよびイスラエルによるイランへの一方的な軍事攻撃は、さらなる報復の連鎖を招き、罪のない市民の命を奪うばかりか、世界平和を根本から揺るがす暴挙です。私たちあいコープみやぎは、食と暮らしを支え、「命」と「平和」を最優先する立場から、今回の戦争行為に対し強く抗議するとともに、軍事行動の即時停止を強く求めます。

凄惨な武力衝突は、子どもや女性、高齢者を含む一般市民の尊い命を奪い、住まいやインフラを破壊し、人々から人間らしい生活を根こそぎ奪い去ります。戦争は最大の環境破壊であり、最大の人権侵害です。いかなる政治的、軍事的理由があろうとも、武力によって平和を築くことは不可能です。暴力はさらなる憎しみを増幅させ、取り返しのつかない人道危機を招くのみです。

また、中東地域における戦火の拡大は、エネルギー供給や物流への深刻な影響を通じて、日本を含めた全世界の市民生活を直撃し、食料安全保障を脅かします。私たちは、平和こそが持続可能な暮らしの基盤であることを確信しています。平和が崩れれば、私たちが大切にしてきた産直の取り組みも、安全な食卓も維持することはできません。

日本政府に対して強く要望します。日本は、戦後80年守り続けた憲法9条をもって戦争をしない国であると世界に示してきました。唯一の戦争被爆国として、国際社会に対し、これ以上の武力行使を許さない外交努力を求めるべきです。日本政府は、長年の外交努力によって築かれたイランとの友好関係を無駄にするかのような批判は避け、アメリカの顔色ばかりをうかがう姿勢も見直す必要があります。武力の行使を容認するのではなく、対話による平和的解決へと導くリーダーシップを発揮することを求めます。

「平和なくして暮らしの向上はない」これは私たち生協運動の不変の原点です。私たちあいコープみやぎのビジョンには明確に人と人がささえあい、安心な地域社会をつくる目標を持ち、平和と人権を守る活動を掲げています。イランおよび中東地域で恐怖にさらされているすべての人々に寄り添い、今後も全国の生協、組合員、他団体と連帯して、武力行使の即時停止と恒久的な平和の実現を強く訴え続けます。

次世代を担う子どもたちが、戦火の影に怯えることなく、安全な食べ物を囲み、家族と安心して笑顔で暮らせる社会こそが、私たちの目指す未来です。

一国の利益や政治的思惑のために、一人ひとりの生存権が脅かされる事態を、私たちは決して看過することはできません。対話と協調による解決こそが唯一の道であり、私たちはそのために、地域から平和の尊さを発信し続けます。

以上